霞　城　コ　ン　パ　ス

進路情報 第20号 令和3年1月28日発行

■ 令和3年3月卒業予定者の進路希望・合格状況　　1月27日現在

	Ⅰ 部	Ⅱ 部	Ⅲ 部	合計	合格・内定
4年制大学	5	0	0	5 ＜ 3＞	4(2)
短期大学	0	0	0	0 ＜ 1＞	0(1)
専門学校	5	7	2	14 ＜ 9＞	14(8)
就　職	9	13	0	22 ＜26＞	17(20)
そ の 他	2	3	0	5 ＜ 7＞	
合　計	21	23	2	46 ＜46＞	35(31)

※( )内は昨年度1月22日現在実績。＜ ＞は昨年度希望者数。

◆卒業年次のみなさんへ

【卒業式までの日程】

2月 3日(水)・10日(水)・17日(水)・26日(金)　登校日

※2月10日(水)高校生のための社会人講座

(ⅠⅡⅢ部ともに12:50登校)

3月1日(月)　表彰式・同窓会入会式

3月2日(火)　卒業式

卒業年次の皆さんは2月からは自由登校に入り、2月15日の卒業判定会議で卒業が認められれば、上記の通り卒業式まであと6日間しか登校しません。自分の自由な時間が大幅に増えることになりますが、この期間の過ごし方、生活の仕方が卒業後の生活に大きく影響します。登校しなくてよいからと言って、朝遅くまで寝て夜遅くまでゲームするなど生活リズムが乱れたり、食生活が乱れたりすると、新生活が始まってから辛くなってしまいます。就職する人も進学する人も、ほとんどの人が朝早く起きて出勤・通学し、夕方に帰宅という生活になると思います。その生活が苦にならないよう、今の内からそれに合わせた生活を心がけましょう。ただでさえ新生活のスタートは環境の変化・人間関係の変化があり、誰でも多少なりともストレスになるものです。せっかくの自由な時間を有意義に使って、新生活のスムーズなスタートを切るための努力をして過ごしましょう。

就職希望でまだ進路が確定していない人もいますが、諦めずに就職活動を続けましょう。

◆次年度卒業年次のみなさんへ

SST5回目(次年度卒業年次対象)

2月5日(金)15:00～16:00

63教室(※年度当初の予定と変更)

次年度の進路目標達成に向けて大切なことを話していただきます。出ろと言われたからという姿勢ではなく、次年度の自分の進路目標達成のための**強い気持ち**を持って、**積極的な姿勢で参加**してください。

◆在校生の皆さんへ

今号では、**進学の入試形態**について説明します（KAJO進路ハンドブックのP42～43も読んでください）。

今年度からの大きな変更点は、**「学校推薦型選抜」「総合型選抜（旧AO入試）」が学力不問ではないという点です。**学科試験ではなく別の形で学力を判定します。これは一般入試合格者に比べ、学力不問のAO入試合格者や早い時期に合格が決まる推薦入試合格者の学力の著しい低下が問題となっていたからです。

したがって、大学・短大に進学するにはいずれの入試形態も学力が必要ということです。

<国公立大学>

いずれの入試形態も非常に難関です。非常に高い学力が必要です。**本校での受験科目の評定が5、且つ、外部模試の全国偏差値48以上**が最低条件の目安と考えてください。一般選抜での合格を望むならば、**全国偏差値50以上が基本**でしょう。

<私立大学>

一般選抜はおおまかに**個別入試**と**共通テスト利用入試**があります。個別入試は大学によって様々な方式があるので、募集要項で十分に確認が必要です。受験生は複数の大学を受験するのが普通なので、特に滑り止めとなるような大学は定員割れを避けようと合格者をかなり多く出す傾向がありましたが、近年入学定員の規制が厳しくなり、その傾向もなくなってきました。受験科目は3科目型（文系は国英社、理系は数英理）が多いので、科目を絞って集中的に学習した方がいいでしょう。やはり目安は外部模試で**全国偏差値45以上**ですが、大学のレベルは様々なので、**合格判定B以上**が一般選抜での合格の目安です。

一般選抜での合格が厳しい場合、学校推薦型選抜がありますが、大学が示す**評定平均や出欠、資格等の条件をクリア**しなければ出願できません。学科試験ではなく、面接の中での**口頭試問や小論文等で学力を判断**される他、**志望動機**がしっかりしていなければなりません。合格レベルの志望動機は、その大学についての理解や大学で学びたいことの具体性、卒業後の目標などがしっかりしていなければなりません。

条件をクリアできない場合、総合型選抜（旧AO入試）がありますが、エントリーから本出願まで期間が非常に長く、複数回の面談や課される課題も多岐にわたり、**非常に多くの労力が必要**になります。評定の条件はないのが普通ですが、プレゼンテーションやディベートなど様々な形で学力を判断されます。

<短期大学>

募集定員の8割以上を学校推薦型または総合型選抜で決めるため、一般選抜はかなりの狭き門となります。短大を希望するならば基本的には学校推薦型でしょう。学校推薦型については基本的に私立大学で述べたことと同様です。

<看護医療系専門学校>

面接が必須で、入試の難易度が高い**看護・理学療法・作業療法等**の専門学校のことです。学力は当然のことながら、命を扱う分野であることから**人間性が重視**されます。推薦はもちろんのこと、一般でも**面接が必須**です。受験科目は学校レベルによって様々ですが、**国語力が必須**です。母集団が限定的なので、進研模試ではなく、**看医模試の成績・偏差値**を見ないと判断できません。

次の生徒の大学・短大・看護医療系専門学校の学校推薦は認められません！

① 評定「1」がある人
② 不認定の科目がある人（単位を落とした科目、欠時数オーバー）
③ 欠席日数が多い人
④ 学校の指導に従わない人
⑤ 高2コース実力養成講座（後期）に未エントリー
⑥ 高2コース実力養成講座（後期）にエントリー済みでも、講習・外部模試を欠席、春課題未提出

なお、ガイダンス等でも何度も説明していますが、

上記④～⑥に該当する人は卒業年次の個別指導を受けることはできません。

<専門学校>

面接のみや書類選考のみというのがほとんどなので、学科試験がある場合を除き、不合格になることはあまりありません。むしろ、**職業直結や資格試験の養成校である要素が強い**ので、**卒業後の目的が明確**でないと意味がありません。将来の職業や業界についてよく調べた上で、しっかり進む方向を定めて、覚悟を決めて学校を選ぶことが大事です。